

新型コロナ緊急支援

総括「移民・難民の子どもいのちを守る基金 ～セーフティネットからこぼれ落ちる子育て世帯へ～」

1. 本基金の概要

2021年2月特定非営利活動法人 Living in Peace(以下、LIP)は1月7日以降、複数の都府県で緊急事態宣言が再度発令されたことを受け、移民・難民として日本で生活する子育て世帯への緊急支援を行いました。解雇や勤務時間の短縮により親の収入が激減し、困窮する家庭が増加したことを受け、子どもたちの命をつなぐため現金給付支援を実施しました。

第1弾(2021年2月募集開始)、第2弾(2021年4月募集開始)、第3弾(2021年8月募集開始)と約半年をかけて、総計 128世帯、224名の子どもたちへ支援を届けることができました。ご寄付をいただいた皆様、誠にありがとうございました。

支援した世帯の中には、コロナの影響をうけて職を失ったり、休業を余儀なくされたために、子どもに満足にごはんを与え、学ばせてあげることが叶わない世帯も多数いました。どの家庭の保護者も、それを苦しく思い、子どもへのストレスや精神的ダメージを心配していましたが、コロナ禍という自身の力だけではどうにも解決できない状況に窮していました。また、外国籍であるがゆえの諸事情による「公的支援の受け辛さ」というのも、その状況に拍車をかけていたように見受けられます。

今回支援を受けた世帯からは、支援金で子どもの食費や学費を賄えたことに、大きな感謝が寄せられました。LIPもこの支援金が子どもたちの未来をつないだことをうれしく思っています。

LIPでは今後も「機会の平等を通じた貧困削減」を目指して、さまざまな支援を続けてまいります。

2. 支援結果

■緊急支援金の支給総額	5,650,000円
■支援総世帯数	128世帯 ※
(内ひとり親世帯数)	53世帯 ※
■支援した子どもの総数(胎児含む)	224名 ※

■申請代表者の国籍の内訳※

中国	10	コンゴ民主共和国	6
ミャンマー	21	カンボジア	3
ペルー	6	カメルーン	1
ベトナム	4	ガーナ共和国	3
フィリピン	31	エチオピア	1
バングラデシュ	1	エジプト	1
ネパール	18	ウガンダ	1
ナイジェリア	2	イラン	3
トルコ	7	イエメン	2
チュニジア	1	アフガニスタン	1
スリランカ	3	無国籍	2

■申請代表者の在留資格の内訳※

永住者	7
仮放免(うち難民申請中)	31(6)
家族滞在	4
技術・人文知識・国際業務	9
技能	18
教育	1
経営・管理	1
在留資格なし	3
定住者	33
特定活動	17
特別在留許可申請中	2
日本人の配偶者等	1
留学	1

■都府県内訳※

東京都	64
埼玉県	16
神奈川県	17
千葉県	6
大阪府	9
茨城県	4
愛知県	3
群馬県	4
京都府	2
栃木県	2
兵庫県	1

※延べ数

■ 申請書に見る移民・難民の子育て世帯の声

子どもに十分な食事を与えてあげられない。

収入が減る中、家賃や光熱費などの固定支出を払うとほとんど手元に残らず、削れるところは食費しかないので、育ち盛りの子どもの我慢をせよと言われていない。

子どもは現在生後6か月で大きくなったら保育園に預け働きたいが、コロナの影響で仕事を見つけるのも困難な状況。ミルク代も含めお金が必要。

受けられる公的支援は受けてきたがコロナの影響で月々の支払い、生活必需品の調達にも影響。一番困っているのは食料品。他団体による支援も受け取ったが食べ盛りの長男に満足に与えられない。

子どもたちに学習機会を保障してあげられない ...

子どもたちは在留資格が影響し、奨学金を申請できず、進学資金の見通しが立たない中での受験となった。

諸々の事情で子どもも大きなストレスを抱えている。学費や教材費も滞納しており申し訳ない。

緊急事態宣言により収入はコロナ前を大きく下回り、家賃や健康保険料が払えていない。高校在学中の長女の後期の授業料を払えるめどがたっていない。

子どもに必要なものを買ってあげられない。

コロナの影響により、収入が激減し、子どもの学用品など買ってあげられない。

コロナで支援者が帰国し水道光熱費の支払いも厳しい。食費や教育費(水着や運動靴等)も足りず子どもたちの教育・成長に深刻な影響。

学校でバレエ部に入部したかったが、ユニフォームやシューズを買いそろえることができず、あきらめてもらうしかなかった。

■ 支援対象者からヒアリングした日用品・食品ニーズ

・食品:米、生鮮食料品(野菜・果物・肉・魚)、ミルク、油、離乳食、缶詰、調味料、お菓子・おやつ、麺類、パン等

・日用品:オムツ、生理用品、衛生用品、マスク、トイレtpーパー、洗剤、消毒用アルコール等

■ 支援対象者からヒアリングしたその他ニーズ

・子どもの衣類、靴、学用品、おもちゃ等

・子どもの学費、生活費、家賃、光熱費など月々の支払い

・子どもの医療費

・在留資格がなくても使える行政・託児などのサービス(の多言語対応)

・医療機関への同行(コミュニケーションのため)

・日本語を学ぶ場

・わからないことを気軽に相談できる場

■ 支援を受けとった方々からの声

・子どもの洋服、下着や食べ物を買うために使います

・食費と光熱費に使います

・都立高校へ入学が決まっていたのですが、あまりにも初期費用がかかることに不安を感じていました。このサポートのお陰でなんとか無事に払い終わることができそうで少し安心しています

・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で仕事が見つからず収入が少ないときに助けて下さって、本当に感謝しています。

この度は本当にありがとうございました

(原文ミャンマー語を支援団体の方が和訳くださいました)

・子どもが高校に入学し、部活のユニフォーム費用が必要になりました。

一部は購入できましたが、足りずに悩んでいました。その時ちょうど給付が出るのと聞きとても嬉しかったです。すごく助かりました。

・未払いだった子どもの部活費用と歯の治療費にあてます。

・急に母国に帰国できなくなり、3人の子どもと妻を1人で支えるのは難しく、食料などの生活費に困っていたのでとても助かりました。

・まずは、子どもの粉ミルク、オムツ、食べ物を買うそうです。今月の家賃または電気代が払えると大変に喜んでおります。「家族全員うれしいです。ありがとうございます。」

・家賃が払えなくて、住居確保給付金も対象にならないし、どうにもならないときだったので、家賃にあてるしかなかったです。本当に助かっています。 こうやって自分みたいに困っている人がたくさんいると思いますが、そういう苦しんでいる人に寄付してくれる心優しい人がいて、感謝しかないです。仮放免で、働けないし、法的支援もない自分たち家族を、振り向いてくれたり、手を差し伸べてくれる人がいるということに、感謝の気持ちしかないです。いつか自分も在留資格がもらえたらお返しをしたいと思います。